

JET からの手紙

コロナ禍だからできた仕事 ～人と深く関わる中でみつけたこと～

高知県国際交流課

Minda Dettman (デットマン・ミンダ)

高知県の CIR 体制

高知県では、2020 年まで 4 人の国際交流員 (CIR) が業務を行っており、英語圏担当が 2 人、韓国語担当、および中国語担当が 1 人ずつ配置されていました。2021 年には、ベトナム語担当の CIR も配置されました。

英語圏担当のうち 1 人は県内の JET 参加者の研修実施や相談対応を行う取りまとめ団体アドバイザー (PA) の役割を担うことになっており、私が現在担当しています。

5 人の CIR のうち 4 人は 1 年目から県庁で勤務していますが、PA の役割を担っている CIR は、県内の市町村での勤務を経験した後に、2 年目以降に県庁に異動する形で着任しています。

私は 2019 年 8 月に高知県庁に赴任しました。県での業務は、仕事の範囲も広く規模が大きいため更に忙しくなりました。県での勤務が始まり、約 6 カ月が経過した頃、ミクロネシアへの出張の帰りに空港で新型コロナウイルス感染症のニュースが流れているのを目にしました。それから間もなく感染が拡大していき、それまで想定していた国際交流員としての業務は大きな制限・変更を余儀なくされました。

通常、県の CIR は庁内のさまざまな課からの依頼を受け、翻訳業務や外国人の視点での助言を行ったり、団体向けの外国語講座や学校での文化紹介講座、海外出張や海外からの訪問団の受け入れのサポートを行っていました。

ところが、新型コロナウイルスの感染が拡大していくにつれ、海外への渡航や会場開催でのイベントが中止となり、私たちの仕事も減ってしまいました。残ったのは、



翻訳の仕事と県警やガイドグループ向けの英語講座、PA としての仕事でした。

任団訪問 (2020 年度)

私は、現在 CIR と PA の業務を兼務していますが、新型コロナウイルス感染症の拡大以降は、CIR としての仕事が減り、PA の仕事が急増していきました。世界中の誰もがストレスに追われるなかで、JET プログラム参加者からの深刻な内容の相談も日に日に増えていきました。

通常、高知県では 53 の任用団体で約 130 名の JET 参加者が活躍しています。県内東部から西部までは、車で約 6 時間もかかるうえに、1 市町村に JET 参加者は通常 1~2 人しかいません。困っている県内の JET 参加者の声を直接聞きたいと考え、担当者や相談して、各任用団体を訪問することにしました。

各任用団体の担当者と JET 参加者の悩みや業務の中でそれぞれが工夫していることなどを聞き取りました。

誰もがストレスが高まっているコロナ禍において、互いが支えあっている任用団体が思っていた以上に多く、感動しました。一方で、コミュニケーションが上手く取れていない団体において、問題が発生しやすいことも実感しました。そういったケースでは、他団体の良い取り組み (スケジュールの作成や定期的な打合せの設定など) を紹介するなどして、県内の JET 参加者がより良い環境で働くことができるように意見交換を行っていきました。

キャリアフェア (2021 年度)

任用団体訪問を行う中で、「県内での就職に興味はあるが、何から始めたら良いのか分からない」などの声がありました。そこで、県内企業の国際進出のきっかけに

もなるのではと考え、2021年10月に当課主催で、9社の県内企業（林業、卸売業、工業などの業種）に出展いただき、高知県内在住の外国人37名の参加のもと在住外国人向けのキャリアフェアを開催しました。



グローバルキャリアフェア in 高知

キャリアフェアでは、1時間のセミナーと個別ブースでの3時間の交流会の2部構成で実施しました。

セミナーでは、県内で就職した2名の在住外国人の講話や県内の就職支援機関の話などをもとに県内の就労状況についての基礎情報が得られるような内容となるように工夫をして実施しました。交流会では、殆どのブースで時間いっぱい話が途切れることなく、最後まで熱心に企業の話を書く参加者も多く、充実したものとなりました。

参加者の中には、「観光分野などに興味があり、県外での就職を検討している」という方もいらっしゃいましたが、「高知県内の労働状況を知る良い機会になった」と話してくれました。企業側からも「優秀な外国人材と出会える貴重な機会となった」との声をいただきました。コロナ禍での新規事業の立ち上げは苦労も多かったですが、貴重な経験となりました。

お遍路現地視察や防災訓練

自然が魅力の1つの高知県は、観光と災害対策の両立を図っていかねばなりません。CIRの業務には、在住外国人や観光客向けの災害対策に係る業務もあります。

四国には、お遍路と呼ばれる四国八十八カ所札所を回る巡礼の道があります。2021年5月に1日で歩けるお遍路のコースを紹介する外国人向けのパンフレットの編集を依頼されました。お遍路に挑戦してみたい人向けの14~18kmのコースが紹介されており、地図が苦手な人でも文章と写真で理解できる道案内を掲載することがコンセプトのパンフレットでした。



自然に囲まれた遍路道を探索

パンフレットの情報チェックと、今後新しいルートを作成する際の参考にするため、3つのうちの1つのルートを実際に歩いてみました。お寺をめぐる、海外から来たお遍路さんが興味

ありそうな場所や風景を探し、高知の文化に近づけたひと時となりました。

お遍路や自然を目当てに観光客を呼び込むと同時に、災害など有事の際に対応できる体制を整えることも重要です。そういった際に対応のため、県警と月に1度の英語の勉強会を行っています。勉強会を続けて行く中で、県警の訓練にも参加するようになりました。

私は、もともと防災関連に関心があったため、県警が実施する災害時救出訓練への参加は、大変興味深いものとなりました。訓練内容は土砂災害を想定したヘリでの救出と土砂で埋もれた車からの救出で、その中で被災者を目撃した日本語が話せない外国人役を務めました。

通訳を介して被災者の情報を伝え、被災者役の警察官がヘリで救出されるまでを間近で見ることができ、想像以上に迫力のある訓練が体験できました。

また、災害時の救出作業がどのようなものなのかを知ることができ、その厳しい状況に英語が加わっても皆さん冷静に対応していて安心しました。

災害は、いつ発生するか分からないため、あらためて準備の大切さを実感しました。



ヘリコプターで被災者役を救出!

コロナ禍だからできた仕事、人と深く関わってできた仕事

コロナ禍で、通常業務ができない中だからこそ、仕事相手といつも以上に関わり合うことができ、時間をかけて理解しあうことで、普段見過ごしてしまうかもしれない問題に向き合い、新しい仕事へと発展させることができました。今後、通常業務が戻ってきても、コロナ禍で学んだことを活かし、それぞれの業務に生じる課題を見逃さず、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

プロフィール



Minda Dettman
(デットマン・ミンダ)

アメリカ、アリゾナ州出身。島根の小学校に通っていた時、ALTに助けもらったのがJETプログラムを知ったきっかけ。大学で地質学を勉強した後、2018年高知県へ着任。趣味は編み物、ランニング、山登り。高知県での目標は龍馬パスポート（観光スタンプラリー）全制覇!